

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	地域高規格道路 <small>おおず やわたはま</small> 大洲・八幡浜自動車道 一般国道197号 <small>おおずにし</small> 大洲西道路	事業区分	一般国道	事業主体	愛媛県
起終点	自:愛媛県 <small>おおず</small> 大洲市北只 <small>きたただ</small> 至:愛媛県 <small>おおず</small> 大洲市平野 <small>ひらの</small>			延長	3.3km
事業概要					
<p>「大洲・八幡浜自動車道」は、愛媛県大洲市北只から八幡浜市保内町喜木を結ぶ約14kmの高規格道路であり、愛媛県における「3つのミッシングリンク」の1つである。</p> <p>「大洲西道路」は、大洲市北只を起点とし、大洲市平野を終点とする延長3.3kmの区間をバイパス方式により2車線の道路を整備するものであり、「大洲・八幡浜自動車道」の一部を構成し、「夜昼道路」「八幡浜道路」「名坂道路」と一体となって四国縦貫・横断自動車道に接続し、広域交通ネットワークを形成するものである。</p> <p>これにより、大規模災害時における緊急輸送道路の確保、円滑な救急医療搬送、地域産業である農林水産業の振興、観光地へのアクセス向上等を図ることが期待される。</p>					
H29年度事業化		都市計画決定なし		R6年度用地着手	
R6年度工事着手					
全体事業費	149億円	事業進捗率	約9%	供用済延長	— km
計画交通量	9,600台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	1.1(1.6)	4.4%	243/1,350億円	287/1,472億円	令和7年
	1.5(2.6) [2%]	(6.6%)	事業費: 238/1,331億円	走行時間短縮便益: 239/1,200億円	
	1.9(3.3) [1%]		維持管理費: 1/1.6億円	走行経費減少便益: 38/216億円	
	2.2(3.7) [1%]		更新費: 4/17億円	交通事故減少便益: 10/56億円	
(残事業)	(残事業)	感度分析			
1.2(1.9)	4.9%	(事業全体)	(残事業)		
1.8(2.9) [2%]	(7.6%)	交通量 B/C=1.00~1.2(±10%)	交通量 B/C=1.1~1.3(±10%)		
2.2(3.7) [1%]		事業費 B/C=1.1~1.1(±10%)	事業費 B/C=1.1~1.3(±10%)		
		事業期間 B/C=1.1~1.1(±20%)	事業期間 B/C=1.1~1.3(±20%)		
事業の効果等					
①大規模災害への備え					
<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路ネットワークと一体となった広域避難・救援道路を構築することで、大規模災害発生時や万が一の原発事故発生時における「命の道」として、確実かつ迅速な緊急輸送や避難・救援活動を支援する。 ・国道197号とのダブルネットワーク化により、地域防災力の向上が図られる。 					
②四国経由で本州と九州を結ぶ「新たな国土軸」の機能強化					
<ul style="list-style-type: none"> ・八幡浜港と四国8の字ネットワークを高規格道路で連結することで、広域物流・観光ルートとなるフェリー航路を介して四国経由で本州と九州を結ぶ「新たな国土軸」の機能が向上する。 ・「新たな国土軸」の整備により、地場産業の振興や県下全体における交流人口の拡大、広域的大規模災害時におけるネットワークの代替性確保が図られる。 					
③慢性的な渋滞の緩和					
<ul style="list-style-type: none"> ・国道197号が国道56号に合流し交通が集中する国道56号北只交差点付近の慢性的な渋滞が緩和され、旅行速度が向上する。 					
④広域救急医療体制の支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・大洲市と八幡浜市とを繋ぐ高規格道路の整備により、八幡浜・大洲圏域の救急医療体制を支援するとともに、管外の三次救急医療機関へのアクセス向上により、地域の安心の向上に大きく貢献する。 					
⑤九州との連携強化による地域活性化					
<ul style="list-style-type: none"> ・高規格道路ネットワークと八幡浜港が直結して人・物の輸送効率が向上することにより、県内企業の九州方面との取引拡大などを支援し、地域の活性化に貢献する。 					
⑥地域間連携による持続可能な地域づくりへの支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・大洲・八幡浜間の所要時間の短縮により、商業施設や病院などの相互利用、通勤圏域の拡大による人材確保などが容易となり、八幡浜・大洲圏域内の連携が強化されることで、持続可能な地域づくりが可能となる。 					

関係する地方公共団体等の意見	
・国道197号(大洲・八幡浜・西宇和間)高規格道路建設促進期成同盟会)による事業促進の強い要望がある。	
事業評価監視委員会の意見	
・事業継続を妥当と認める。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月 中山スマートIC 開通 ・令和5年3月 八幡浜道路 開通 ・令和6年2月 松山外環状道路(余戸南IC～東垣生IC) 開通 ・令和6年3月 東温スマートIC 開通 ・令和7年4月 松山自動車道(伊予～内子五十崎) 一部区間4車線化 	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
・用地取得率28%、事業進捗率約9%	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
・早期の供用を目指し、工事を推進する。	
施設の構造や工法の変更等	
・今後も工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
・事業の必要性、重要性は変わらず、費用対効果も確保されているため。	
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

(※B/Cの値は、大洲・八幡浜自動車道を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。)